



KARIBIB の回想



2023 年度 1 次隊/数学教育/渡辺 崇人

2024 年 10 月 20 日 Vol.18(番外編)

本日紹介するのは、ナミビア南部と国境を接し、アフリカ大陸最南端に位置する国で、首都が3つあるとも言われている南アフリカ共和国です。これは、現在の南アフリカ共和国の前身である「南アフリカ連邦」まで話が遡り、元マイギリス領だった植民地と2つのオランダ系旧共和国が併合して誕生しましたが、その際イギリス領だったケープタウンに国会を設置する代わりに、2つのオランダ系旧共和国への配慮として、それぞれの首都であったプレトリアに行政府を、ブルームフォンテインに司法府を設置したことが現在まで引き継がれ、結果として首都機能が3都市に分散配置されていることに因ります（国土交通省『[WEB ニュースレター新時代 vol.72 世界の首都機能移転](#)』より）。

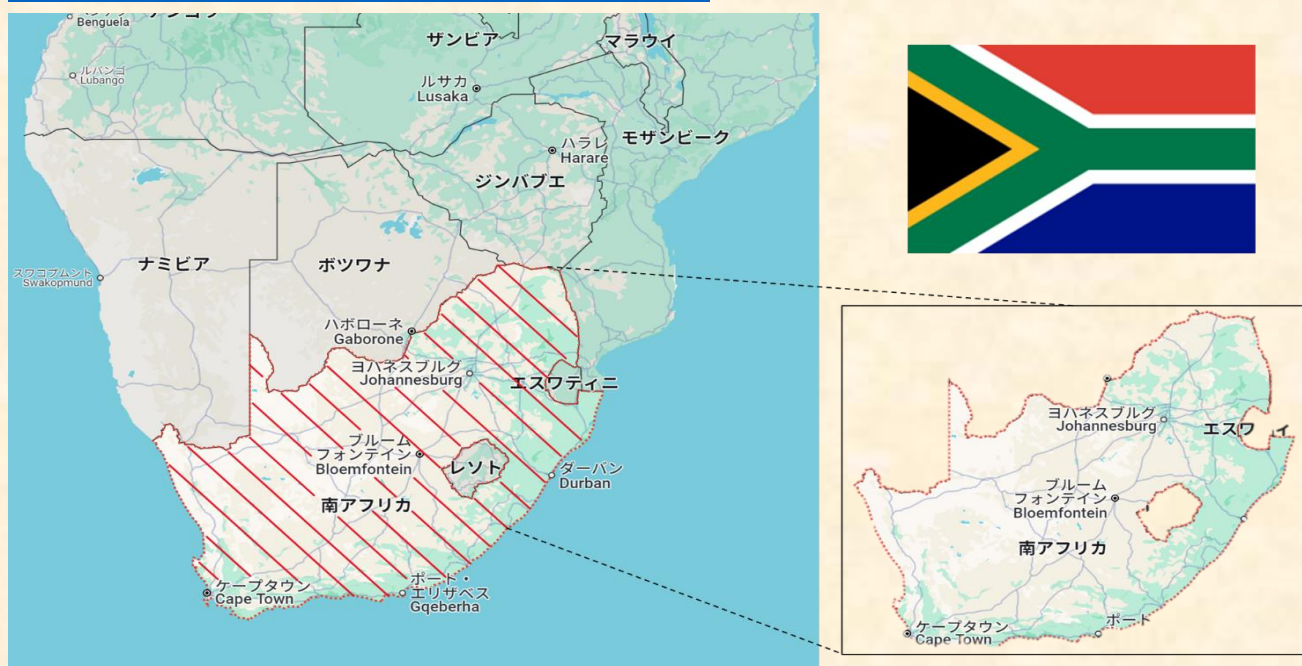


図1：南アフリカの地形図（国旗は https://en.wikipedia.org/wiki/Flag_of_South_Africa）

●基礎データ（外務省「南アフリカ基礎データ」より）

面積	122 万 km ² （日本の約 3.2 倍）
人口	6,203 万人（2022 年）
首都	プレトリア
言語	英語、アフリカーンス語等 合計 12 言語が公用語

この国は 2010 年にアフリカ大陸で初めてのサッカーW 杯の舞台にもなりました。その時の主題歌 [Waka Waka \(This Time for Africa\)](#) は Vol.16 で紹介したジンバブエ国内

移動用の長距離バス内や今後紹介するナミブ砂漠のロッジ等、アフリカの色々な地域で耳にするほどこちらでは馴染みのある曲です。また、南アフリカを代表する国民的スポーツといえば、やはりラグビーです。元々は英国より輸入されたスポーツであったため、アパルトヘイトという人種隔離政策の真っ只中では「白人のスポーツ」であり、多数を占める黒人の国民の間では大変不人気なものでした。しかし、1991年に同政策が廃止され、94年に同国初の黒人大統領に就任したネルソン・マンデラは、このスポーツが白人と黒人の和解と団結の象徴になると考え、様々な方面で尽力した結果、95年の自国開催のラグビーW杯で初出場・初優勝を飾るという快挙を成し遂げました。このことから、ラグビーは同国にとってスポーツ以上の意味合いを持つ大切なものでもあります。この一連のストーリーは映画『インビクタス/負けざる者たち』にも描かれており、初めて観た時は運動部の顧問をしていましたが、規模は異なるものの、人を動かす言動に何度も胸打たれ、このような指導者になりたいと思った記憶があります。オススメの映画の一つです♪



写真1（左）：ケープタウンの外観
『iStock』より引用



写真2（右上）：ケープタウンのモニュメント
写真3（右下）：V&A ウォーターフロント

さて、訪れた先はヨハネスブルグに次ぐ第2の都市、ケープタウンです。図1からも分かる通り、大西洋とインド洋に面しており、古くから港湾として栄えてきました。一方、この半島自体（ケープ半島）が世界自然遺産で、港から少し離れた所には垂直に切り立った崖が特徴の、標高が1,086mあるテーブルマウンテンがそびえ立っており、海と山という両自然を味わえる名所になっています（写真1）。また、港は交易の中心として繁栄してきた歴史がある分、「ここは本当にアフリカの街か？」と錯覚するような景観です。特にその中でも有名なV&Aウォーターフロントは、歩いていると我々以外からも日本語がちらほら聞こえ、その街並みも相まってか横浜の“みなとみらい”を連想させるような、どこか懐かしさを覚えた街でした（写真2，3）。



写真4（左）：ケープポイント、写真5（中央）：喜望峰の入口前、写真6（右）：ボウルダース・ビーチ

ケープタウンを訪れた目的は2つあります。1つは、アフリカ大陸最南西端の喜望峰を訪れることです（写真4，5）。この喜望峰、1488年にポルトガル人の航海者バーソロミュー・ディアスによって発見されましたが、当時はこの海域が非常に荒れていたことから「嵐の岬」と呼ばれていたそうです。しかし、その後ポルトガル王が東方への航路発見に希望を抱き、現在まで続く「喜望峰」と改名したそうです。現在は船乗りのための灯台としての機能はありませんが、灯台跡は見ることができます。自身はこの場所の存在はもちろん聞いたことはありましたが、どんな場所なのかまでは行くまで全く知りませんでした。ケープタウンでの観光は、赤い2階建ての観光バスが市内を周遊しているため、それに乗車すれば有名などろに行くことはできるのですが、自身が直前まで次の行き先を知らないまま乗車していたところ、サービスエリアのような所で降ろされ、友人に「ここでの休憩やけに長くない？」と聞いたら「ここ、喜望峰だよ(´・ω・´)?」と言われ、衝撃を受けたことは今でも覚えています。無知とは恐ろしいものですね。。。危うく目的の1つを台無しにするところでした。さて、その観光バスに乗せられて次に向かった先がボウルダース・ビーチです（写真6）。そう、ペンギンちゃんて有名なビーチです。見渡す限りペンギンがいたビーチでした。ペンギンが最も集まる場所には動物園のように柵が設けてありましたが、そこから少し離れた場所だと柵はなく、1m前をペンギンが歩いていきます。ただ、もちろんお触りは厳禁です。こんなに間近でペンギンを見たのは人生で初めてでした。



写真7（左），8（右）：お刺身の盛り合わせとお寿司
料理は写真7，8の通りで、これだけのものがアフリカでも味わえるのかという感動と共に、何と言っても生まれ故郷の料理はやっぱりいいなと舌鼓を打てた素敵な場所でした(^)。そして、もう1つの目的は、本格的な日本料理を久しぶりに味わうことです。実はケープタウンには日本人の経営する日本料理屋がいくつかあり、そのうちの1軒にお邪魔しました。

次回：「まだ助かる、まだ助かる、まだ助かる…」に続くフレーズで有名なあの国を紹介します。